

「伊勢まちかど博物館」における地域資源の保存と継承

安保 涼音

まちかど博物館という取組みがここ数十年で広がっている。まちかど博物館とは、地域の文化や歴史に関わるモノやコトを、地域内の住宅や店舗、工房で、地域の住民である館長と共に見学できる博物館であり、地域ごとに連携が取られたそれらの総称でもある。地域の住民である館長が管理しているため、公的な博物館より、保存に関しては対策が不十分なことが予想される。また、まちかど博物館は地域振興、観光振興の面に目が向きがちであり、地域資源の保存としての可能性は示されているものの、十分な研究がなされていない。そこで、本研究では当初より文化的遺産の保存と活用を目的の1つとし、設立から30年が経過し、従来からの活動や今後の活動について大きな変化の時期が来ている博物館が多いと考えられる三重県の「伊勢まちかど博物館」を取り上げ、その地域資源の保存の現状を調査し、課題点を明らかにすること、まちかど博物館の活動において、地域資源の保存のために有効な方法を提案することを目的とする。

本研究では現状調査のためのヒアリング調査を行った。対象は三重県の「伊勢まちかど博物館」全24館のうち調査許可が得られた16館の館長15人である。①現在の地域資源の保存の現状②連携している大学や施設はあるか③あれば、どのような取り組みを行っているか④地域資源の保存に関して、課題と考えているものはあるか⑤あれば、それは何か⑥これからのまちかど博物館における「地域資源の保存」に対する考え、という6つの大きな質問項目を立て、各館に固有の事情を細かく捉えられるように半構造型の調査を設計した。その後有効な方法の提案のための文献調査を行った。

現状調査においては、それぞれの「伊勢まちかど博物館」活動において、具体的に地域資源がどのように保存されているかを示すことができた。またそれら展示物や建物などの保存方法については、統一の決まりはなく、各館で有識者に助言を求めるなどの方法が取られていることがわかった。

「伊勢まちかど博物館」の課題については、主に県や市との協力、展示内容の保存・管理・継承、まちかど博物館活動の継続にまとめ、その解決策として、市や県との協力体制の構築、金銭的支援、目録の作成や資料のデータ化、他機関との連携、その地域資源に興味を持ってもらい、次の世代も巻き込んでいくことを提案した。

本研究では「伊勢まちかど博物館」を扱ったが、三重県は全県でまちかど博物館活動が行われている。他の地域について調べることで比較することも可能である。また、まちかど博物館は多種多様なため、より多くの館を調べることで新たな発見があるだろう。有効な手段を取っている館があれば、それを事例として新たに解決策を提案することもできる。他の都道府県も含めて調査していくことが今後の課題である。

(指導教員 村田 光司)